

戸田 浩二 Toda Koji

1974年 愛媛県西条市生まれ
1996年 筑波大学体育専門学群 卒業
2002年 茨城県笠間市に薪窯を築く
2013年 思文閣(京都)
2017年 アートフェア東京('11'13)
LIXILギャラリー「-聖水-」(京橋)
メイファールアン財団(タイ)'16
MIKA GALLERY (NY)
2019年 「ASIA WEEK NEW YORK」 MIKA GALLERY (NY)('13~)
「土と抽象 記憶が形に生まれるとき」(益子陶芸美術館)
東美アートフェア('12'14)
2020年 アート玄羅(金沢)
2021年 祥雲(銀座)('10'15'19)
2022年 「The Fourth Dimension うつわの未来へ」(益子陶芸美術館)

〈収蔵美術館〉

プリンストン大学美術館 (USA)
デトロイト美術館 (USA)
イェール大学美術館(USA)
インディアナポリス美術館(USA)
益子陶芸美術館
茨城県陶芸美術館

2022年

9月9日(金)~20日(火) 12:00~17:00(水・木曜休廊)

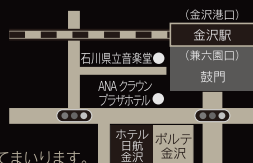
作家在廊日:9月9日(金)・10日(土)

《作品内容》

薪窯による焼締の水瓶や瓶子、葉壺など約20点を展示いたします。

アート
玄 羅
g e n r a

〒920-0853 金沢市本町2丁目15-1 ボルテ金沢3F
TEL/FAX 076-255-0988 [ホテル日航金沢横]
E-mail genraart@ozzio.jp
Web <http://genraart.com>  玄羅アート



表紙 / 白焼締壺 [高17.9cm×17.5cm]

祈りのかたちⅡ

Form of prayer Ⅱ

戸田 浩二展



玄 羅
g e n r a

「鉄鉢の壺」
 古代より、僧侶が托鉢などで使っていたという鉄鉢。そのかたちは、小さな高台から肩口にかけて豊かに拡がり、先端はやや内向きになっています。先端が内向きになることで、内部の空間を包み込んでいます。「これは壺になる。」
 では、鉄鉢の上部にはどのようなかたちがふさわしいのだろうか？
 想いを膨らませて作りました。

戸田浩二



焼締瓶子 [高28.0cm×18.8cm]



焼締浄瓶 [高25.1cm×5.6cm]



焼締薬壺 [高8.6cm×10.4cm]

玄羅での二度目となる戸田浩二の個展が開催される。戸田は伊藤東彦に師事した後、2002年に茨城県笠間にて築窯して独立した。そして今日まで須恵器や古銅器を思わせる端正な作品を制作し、国内外で着実に評価を高めてきた。

その作品は一切の無駄を削ぎ落とし、土味におもねることや炎にゆだねるといった作り手の「甘え」を排除したものである。一本の外線とその外線が束になって生み出される立体物としての存在性を追い求める戸田の厳しい姿勢は、現在の陶芸界にあって極めて異質である。

その態度の根幹には原始・古代を起点とする長大なスケール感の中で、真摯にものをつくり、純粋に「美しいもの」を追い求めてきた人々、そしてそれらの人々が生み出してきたモノへの敬虔さがある。それは安易

な「個性」や「創作」を通じては決して近づくことのできない世界でもある。おそらく直観的にその世界観を捉えたところから出発したがゆえに、戸田はものづくりの厳しい世界にあって自己の立ち位置を一步ずつ踏み固めてこられたのだと思われる。

作風は大きく異なるとしても戸田の仕事からは板谷波山や岡部嶺男といった先人たちの足跡との同質性が感じられる。それゆえに私たちはその作品を見るほどに普遍的な「よいもの」を追い求めるものづくりにおける理想と純化された精神世界へと誘われるのである。

京都国立近代美術館
主任研究委員

大長 智広